

ひがの

～下氷鉋小学校運営の方針～ 全教育活動を通して、児童一人ひとりの個性・能力を伸ばすとともに、敬愛の心を培い、人間性豊かな児童の育成に努める

学校地域懇談会が行われました

今月の9日に、下氷鉋小学校学校地域懇談会が、各区長様、児童委員・民生児童委員の皆様、少年育成関係の皆様、公民館・安全協会の皆様など、PTA・職員を含め総勢90名ほどのご参加をいただき、開催されました。「地域における子どもたちの様子と、保護者・地域・学校で連携した支援のあり方」をテーマにした話し合いがもたれました。

話し合いの中から

- ・子どもたちは行動範囲が広がり、自転車に乗って出かけている。危険な場面が見られる。
1・2年生でも乗っている子を見かけるが、保護者は知らないでいるようだ。
- ・下校の様子を見ると4月はちゃんとできていたことが、この頃は慣れからか、緊張感がなくなっている。
- ・あいさつをしてくれる子と、黙っていてしない子の差がある。上の学年がしっかりしていると、下の学年の子も見習っている。一方、年上の言うことを聞くという、縦のつながりもだんだんなくなってきたりするようだ。
- ・注意をしても、言い訳をしたり、素直に聞かずに文句を言ってきたりする場合がある。難しさを感じる。親同士でも、よく知らない人に注意をされると受け止められない場合もあるようだ。
- ・不審者や非行問題など、事後情報も含め、地域の力を借りて情報を流したり連携をすることが大切。
- ・あいさつにしる、交通ルールにしる、まず周囲の大人が見本を見せることが大事ではないか。繰り返し指導していくことも大切。
- ・あいさつをして、返事が返ってこなくてもいい。今返ってこなくてもあいさつの気持ちよさは通じているはずだから。
- ・子ども同士が関わって遊ぶことが少ない。遊びは人間関係をつくっていく力をつけていくもとだ。
- ・大人は（教師は）頭の上から物を言っていないか。目線も心も子どもの高さに降りていきたい。

子どもがいいきと生きる姿の実現を願って 6つのメッセージ

長野県教育委員会より

学校へ 「信頼」

- ・子どもの「心の声」に耳を傾ける
- ・「全ての子どもが良くありたいと思っている」ことを信じ

家庭へ 「絆」

- ・家族みんなで作る「わが家の約束事」
- ・「一日一回みんなそろっての食事」

地域へ 「連帯」

- ・「私の子ども」から「私たちの子ども」へ
- ・地域で育もう、子どもの「社会力」

《当日資料より抜粋》



下小の児童は交通ルールを守ります

上記のタイトルで、児童玄関前に本校通学区の中の危険箇所等をあらためて掲示をしました。

前出の学校地域懇談会の話題にもなっている、交通安全について見返してみる必要があると感じるからです。このところ、自転車に乗っているの自動車との接触など、事故やけがが続いてありました。それだけでなく、安全を確認しないままの横断や、車道にはみ出しての歩行、通学路を通らない登下校など、交通安全について、学校での指導と共に、ご家庭でも再度ご確認をお願いしたいと思います。



《歩行について》

横断歩道を渡る際、前の人についていくだけで、一人一人が安全確認を怠る傾向があります。自分の目で確かめてから渡りましょう。

二列・三列になって歩くなど、広がって歩く姿があります。歩道は一列で。

横断歩道がないところなど、渡ってはいけな所を横断する姿が見られます。必ず横断歩道を渡るようにしましょう。

《自転車について》

自転車に乗ってよい道と行けない道の再確認をして下さい。

子どもたちの行動範囲は、私たちの思っているよりも広がっています。特に、3年生・5年生など、クラス替えがあった学年は、新しい友だち関係などで、そのような傾向が見られるようです。危険な道路や乗ってはいけない箇所はどこか、確認しましょう。

ヘルメット着用・交差点での一時停止・安全確認の徹底と、スピードの出し過ぎに注意しましょう。

